

1 理念 「子供の『幸せ』のために学校はある！～2030/2040年の日本を生きる子供たちへ～」

校長として本校4年目となる今年も、2030/2040年の日本を生きる子供たちの「幸せ」のために、すべての教育活動をブラッシュアップし、公立学校の可能性を拡げていきたいと思えます。大切にしたいのは「人は多様な人・モノ・コト（出来事）とのつながりの中で育つ」という公立教育の根幹と、「多様性の相互承認」という心理的安全です。

「人は多様な人・モノ・コト（出来事）とのつながりの中で育つ」×「多様性の相互承認」⇒小さな「変革を起こす力」

目指すのはくいつでも、どこでも、だれとでも自分の立ち位置を創れる人間像です。子供たちはやがて様々なコミュニティの中で生きていくこととなります。学校という守られた社会の中で、大いに人・モノ・コトとつながる経験を積んでほしいと願います。何度失敗してもいいのです。なぜなら、それは失敗ではなく「経験」だからです。自分と異なる考え、意見、行動と多く出会い、それをお互いに承認し合える安心感の中で、小さな「**変革を起こす力（agency）**」を育みたいのです。

2 2025 テーマ 「まず、やってみよう！ ～ 私の学校は私がつくる ～」

このテーマを掲げて4年目になります。まず、やってみる！・・・子供たちの姿からも、その空気感が定着しつつあることを実感しています。そして、「やってみる」ためには、深い児童理解に基づき、子供たちの主体性を引き出す教師の仕掛けが必要です。子供たちの気付きを見逃さない教師の感性が必要です。教えこみではない、教師のファシリテーション能力が必要です。教師として資質向上のためにも、私たち教師も「まず、やってみよう！」を大切にします。

これまでの3年間でわかってきたのは、各教科指導をはじめ教育活動全体で光華遊学を支える必要がある、という当たり前のことでした。遊ぶように学ぶ、学ぶように遊ぶ光華遊学の具現化には「児童自身の自己理解」「対話力」の向上等が必須だと気付き始めた私たちですが、では、どのようにこの力を育めばよいのか？いわば、**光華遊学と教育活動全体の往還**を教師側の探究テーマに据えていきます。

令和7年4月吉日

次に、昭島市教育振興基本計画（令和4～8年度）の基本施策に基づいた、経営方針の視点8項目を提示します。